

国語 解答例

問一 ①ちゅうかく ②当初 ③牧畜 ④維持 ⑤ほかく

⑥宙 ⑦ろうばい ⑧描写 ⑨さかのぼって ⑩うおうさおう

⑪遭遇 ⑫も ⑬いな ⑭余地

問二 Aおそらく、Bそして、Cいったい、Dたとえば、Eさて、

問三 偏差

問四

世界の異なる現出、つまり偏差（ずれ）に対して私たちは「どうしてあのようではなく、このようなのか」と問いかけるといふ仕方で、向かい合う。つまり「問い」といふ仕方で思考が立ち上がるということ。（九六字）

・「偏差」（ずれ）が「当惑」を生み出し、さらに、「問い」といふ仕方で「思考」が立ち上がるという文意をおさえているかどうか。

問五

思考にとって、世界はそれが現にあるこのようではなく、さらに別様にも現われ出うるといふ可能性にも開かれている。思考を思考たらしめているのは、この「可能性」であり、思考はあらゆる可能な状態をフル回転で模索する営みである。（二〇九字）

・世界はそれが現にあるこのようではなく、さらに別様にも現われ出うるといふ「可能性」の指摘があること。

問六

この文章を読んで、人間にとって「思考」とは、みずからをとりまく世界の偏差（ずれ）に直面して、それへの「問い」といふ仕方で始動するものであることが理解できた。身の回りの事物や人間関係、および地域や世界の動向に、常に目を向け、その在り方の偏差（ずれ）に注意し、「いかにあるべきか」といふ「問い」を持ち続けるよう努めたいと思う。そして、さまざまな可能な状態を想定し、その中から正しい選択肢を選択していきたい。（二〇一字）

・表記、字数（適切であるか）

・内容（文章で表現されている内容についてよく理解し、自分の問題として考えているかどうか）

——思考の成立、つまり「当惑」から「問い」といふ仕方で「思考」が立ち上がること、

思考の結果得られた答えに基づいて行動すること）